

小中一貫教育に取り組む小中学校のグループ

小中一貫教育実践校・連携校

旭丘中学校
旭丘小学校・小竹小学校

豊玉第二中学校
豊玉第二小学校・豊玉東小学校

練馬中学校
春日小学校・練馬小学校・高松小学校

豊溪中学校
旭町小学校

光が丘第一中学校
光が丘四季の香小学校

光が丘第三中学校
光が丘夏の雲小学校

石神井東中学校
石神井東小学校・富士見台小学校

石神井南中学校
下石神井小学校

上石神井中学校
上石神井小学校

三原台中学校
泉新小学校・光和小学校・橋戸小学校

八坂中学校
八坂小学校・豊溪小学校

練馬区では、中学校1校と近隣の小学校1～3校でグループをつくり、子供たちの交流や学習指導上の連携を進めています(小中一貫教育実践校・連携校、研究グループ)。グループの組合せは固定的なものではなく、中学校と通学区域が重なる小学校のなかで、連携先を増やしたり変えたりするなどの工夫をしています。



小学校と中学校の通学区域が複雑に入り組む地域において、連携先と異なる中学校に進学しても戸惑うことのないように、27年度にはすべての中学校区へ研究グループを広げる計画です。

平成25・26年度研究グループ (27年度に実践校へ移行予定)

豊玉中学校
豊玉小学校・豊玉南小学校

中村中学校
中村小学校・中村西小学校

開進第二中学校
南町小学校・向山小学校

田柄中学校
田柄小学校・田柄第二小学校

南が丘中学校
南が丘小学校・南田中小学校

大泉中学校
大泉小学校

平成26・27年度研究グループ (28年度に実践校へ移行予定)

練馬東中学校
練馬東小学校

石神井中学校
石神井小学校・上石神井北小学校

谷原中学校
谷原小学校・北原小学校

大泉西中学校
大泉第三小学校・大泉第四小学校・大泉西小学校

大泉北中学校
大泉第一小学校・大泉北小学校

大泉学園中学校
大泉学園小学校・大泉学園緑小学校

関中学校
石神井台小学校・関町北小学校

小中一貫教育校 大泉桜学園の取組

大泉桜学園では職員室を一つにして、全教員で9年間を見通した教育を行っています。

発達段階に合わせて1～4年生をⅠ期、5～7年生をⅡ期、8・9年生をⅢ期とし、5・6年生が7～9年生と同じ校舎で50分の授業を受けたり、7年生を防災リーダーに位置付けたりするなど、学習指導要領に準拠した中での小中一貫教育を工夫しています。

また、5～9年生による部活動や児童生徒会活動、1・7年生の入学式や6・9年生の卒業式、9学年合同の運動会や桜祭(音楽会)など、学校行事を通じた異学年交流も行っています。

練馬区教育委員会教育課題研究指定校として、基礎的・基本的な学習内容の指導を充実するために系統的で連続性のあるカリキュラムの研究に取り組んでおり、平成27年秋に研究発表会を行う予定です。



1年生と7年生合同の入学式



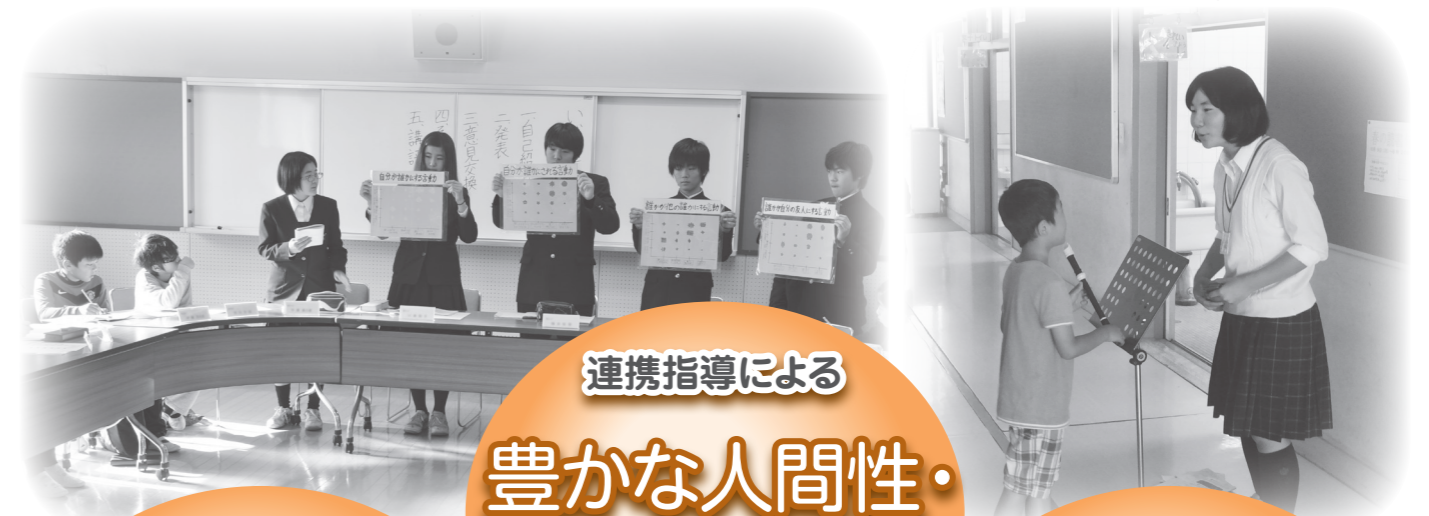
5～9年生が参加する児童生徒会役員選挙

ねりまの 小中一貫教育

ねりまの小中一貫教育は「授業改善による学力・体力の向上」「連携指導による豊かな人間性・社会性の育成」「滑らかな接続による安定した学校生活」の三つを通して、学習意欲の向上や自己肯定感の高まり、不登校の減少を目指しています。

小中一貫教育校とともに、全ての小学校や中学校が取り組んでいきます。各学校が小中一貫教育に取り組むことで学校の力を高め、目指すものを達成していきます。

練馬区公式アニメキャラクター ねり丸
©練馬区



授業改善による
学力・体力
の向上

学習意欲の向上

連携指導による
豊かな人間性・
社会性の育成

自己肯定感の高まり

滑らかな接続による
安定した
学校生活

不登校の減少

練馬区が進める 小中一貫教育の取組

練馬区には、小学校と中学校の通学区域が複雑に入り組んでいる地域が多くあります。また、中学校選択制度により指定校以外の中学校に進学する児童や国都私立の中学校等に進学する児童もいます。

こうした中で、小学校と中学校が連携し、9年間を見通した指導方針のもとで行う小学生と中学生の交流や小・中学校教員による指導計画の研究など、学校の状況に応じたさまざまな取組を行っています。



中学校の体育の授業に参加する小学生
(南が丘中・南が丘小・南田中小グループ)



中学校美術科教員による小学校図工の授業
(豊玉中・豊玉小・豊玉南小グループ)



小学校教員による中学校の授業補助
(開進第二中・南町小・向山小グループ)



小中合同の教員研修会
(田柄中・田柄小・田柄第二小グループ)



中学生の演劇練習を見学する小学生
(大泉中・大泉小グループ)



部活動体験で中学生から教わる小学生
(中村中・中村小・中村西小グループ)

豊玉第二中学校新校舎に 小中連携のための教室ができました

平成27年1月から使用を開始する豊玉第二中学校の新校舎に、同じ中学校区にある豊玉第二小学校と豊玉東小学校との小中一貫教育を推進するための「小中連携教室」(4教室分)を整備しました。

「小中連携教室」を活用し、両小学校の5・6年生が朝から中学校に登校して、中学校の先生の授業を受けたり、小学校同士で交流したりする予定です。このほか、中学校でも多目的に活用します。



豊玉第二中学校の新校舎

小・中学校の状況に応じて 小中一貫教育を 進めています

練馬区は、文部科学省の調査委託を受け、平成25～27年度の3年間、各小・中学校の状況に応じた小中一貫教育のあり方についての研究に取り組んでいます。練馬区では、この調査委託研究の成果を踏まえて、将来の小中一貫教育のあり方について検討していきます。

研究の取組状況は、練馬区ホームページで公開しています。ご参照ください。

<http://www.city.nerima.tokyo.jp/kusei/gakko/ikkan/index.html>

小中一貫教育のさまざまな形

- 施設一体型小中一貫教育校

小中一貫教育校

- 施設が離れた小・中学校における小中一貫教育

- ◎ 隣接・近接している小・中学校

A 中学校 B 小学校

- ◎ 距離が離れている小・中学校

C 中学校 D 小学校

小中一貫教育 Q&A

Q1 練馬区ではなぜ小中一貫教育に取り組んでいるのですか。

A1 近年の子供たちの成長の早まりや中学1年生で多くみられる課題等に対応するため、9年間を見通した指導方針のもとで、小学校と中学校が連携して子供たちを育てることが重要だからです。

Q2 小中一貫教育はどのように進めているのですか。

A2 小中一貫教育校1校(大泉桜学園)を設けているほか、区内の学校を中学校1校と近隣の小学校1～3校で「研究グループ」をつくって2年間の研究を行い、その後は研究成果を活かして小中一貫教育を実践する「実践校」に移行する方法で取り組んでいます。学校が離れていて直接的な交流が困難な学校では、「連携校」として実践校の取組を参考にして取り組む場合もあります。

Q3 特別支援学級の小中一貫教育はどのように取り組んでいますか。

A3 「知的障害学級における小中一貫教育推進方策」を策定し、知的障害学級における小中一貫教育のあり方について研究や連携を深める取組を進めています。

Q4 研究グループや実践校、連携校の中学校への進学はどうなりますか。

A4 区立中学校進学については、これまでどおり、住所によって指定される中学校(指定校)に入学する方法と、中学校選択制度を活用して指定校以外の中学校に入学する方法に変更はありません。

Q5 研究グループや実践校、連携校として連携している中学校以外の区立中学校に進学すると、子供がうまく適応できるか心配です。

A5 子供たちがどの中学校に進学しても安定した学校生活が送れるように、小・中学校の接続に配慮した教育を進めています。